

# 希望 21

自治 共生 平和

## 連帯の力が地域を変える

1995年を「激動の1年」と評して、マスコミやその他多くの人たちが口にしします。確かに、6300人もの犠牲を出した阪神淡路大震災をはじめとして、オウム事件、フランス政府による核実験の強行、米兵による沖縄の少女レイプ事件、高速増殖炉「もんじゅ」の事故などなど。悲しい、暗いニュースが飛び交った1年でした。マスコミなどがセンセーショナルな部分だけをあげつらね、「世紀末論」をあおりながらうわべだけの報道に専念してきた結果、本当に大事な部分が「激動」という言葉で切り捨てられようとしています。

果たして1995年をあらわすのに「激動」という言葉が当てはまっているのでしょうか。「激しく世の中が動いた」というよりは「激しく翻弄された」という感じではなかったでしょうか。

今、阪神地区では震災復興という名の下に行政が推し進める「復興計画」に対して、住民の方から多くの疑問があがってきています。震災の直後すぐに「神戸空港建設」の計画を具体化しようと策動する行政の姿勢にも現れているように、「街をいかに住みやすいものにするか」より「街をいかに採算性のあるものにしていくか」に重点が置かれた行政の住民不在の「街づくり」に、住民が立ち上がろうとしています。こういった地域住民の連帯の結果、最近神戸の東灘区の「森南地区」の再開発事業が住民の声を無視したものとして白紙に戻されました。

ありふれたことだけだからえのない希望がここに

月刊

Jan.1996

創刊  
4号

1部 200YEN

定期購読 1年 3,000YEN

東京都日野市旭ヶ丘 2-19-8

美成社マンション 501 金子方

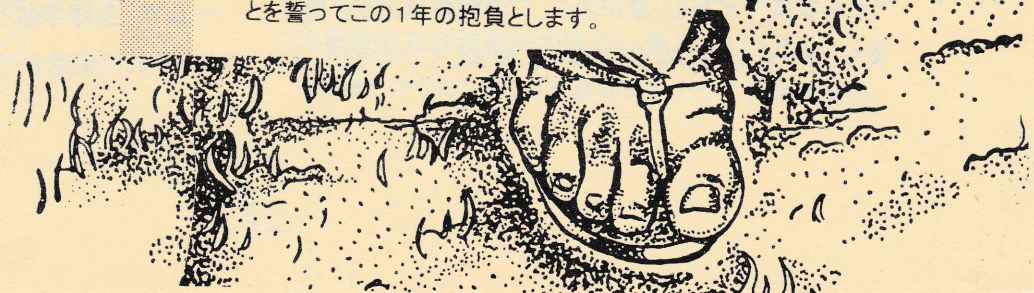
TEL. 0425-85-5473

郵便振替; 00100-1-97125

沖縄の基地問題では、大田知事の代理署名拒否の問題については未だ決着がついておらず、「日米安保」をも巻き込んだ問題へと発展してきています。大田知事を動かし、支えているのは長年抑圧されてきた沖縄の民衆であることは言うまでもないことです。近年まれにみる10万人規模の集会は沖縄という地域について、まとまってよくしようという人々の連帯の強さを示すものでしょう。

このように、民衆がその地域の前進のために連帯しようとしてきているなか、国会をはじめ、国の中枢の部分では、未だに数の論理で動き、また得体の知れない「経済発展」によって動いているようにしか思われません。震災被害者には何の「国としての」救済計画を出し得ていないのに、「経済」というキーワードのもとに住専問題には7千億近い国庫の金を出そうとしています。「日米安保」に対する疑問や矛盾が人々の間で高まってきているにもかかわらず、何の議論もなく、そして理由も曖昧のままに「堅持」を謳っています。このような国政から人々が離れていくことは当然の成り行きです。

私たちは、1995年から「人々が人々と連帯し、その地域を変えていく動き」の重要性を考えさせられました。私たちは今年1996年がこういった点でまさに「躍進」の激動の1年であるように、あらゆる人たちとの連帯を模索し、実現し、動いていくことを誓ってこの1年の抱負とします。





## いま、この人に聞きたい！ 澄田 健一郎さん

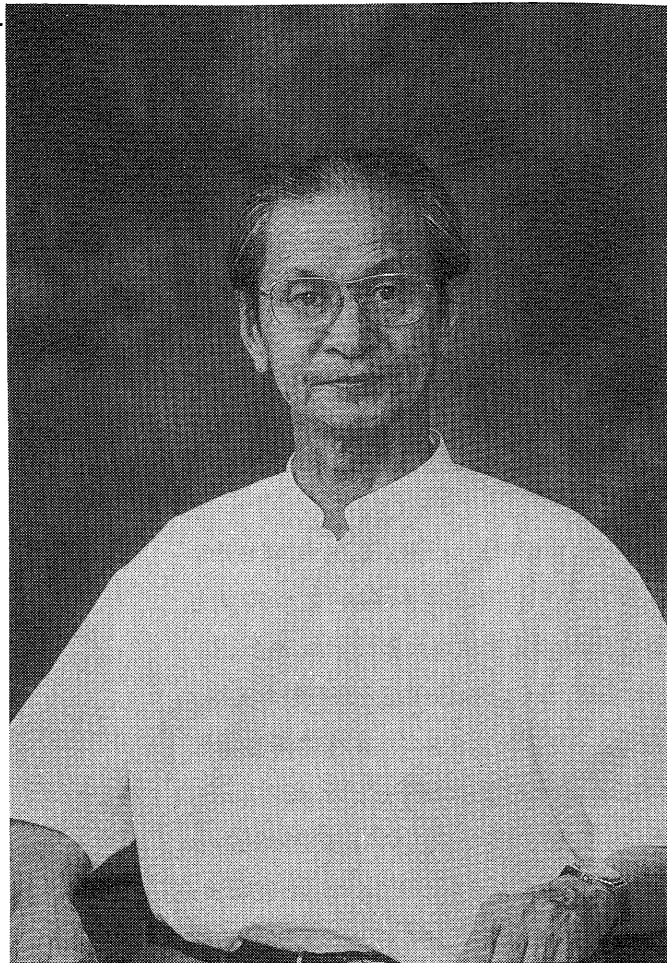
京都「御所」のすぐ東に、洛陽教会があります。この教会のホールでは、様々な市民集会在よく行われるのです。

澄田さんは、この教会の協力牧師をされる傍ら、京都解放の神学社を主宰され、「憲法九条の会」等の市民運動に関わっておられます。

95年夏の参院選挙では、反戦・平和を訴えるグループ『民主の風』の一員として、僕等も共に選挙戦を闘ってきました。

原水協、革新懇での活動、そしてニカラグアでの教師生活…、これまでの経験を語っていただきました。

現在77歳。「赤いバテレン」澄田牧師、健在です。  
(インタビュー・文責：吉田信吾)



と言われてました。また、神学校の教官が、学生を監督しにくるのですが、本部にきた教官には個人教授を受けていました。他の人達は、皆戦場にいたり、工場動員で奴隷のように働かされているのに、僕は幸運にも勉強することが出来たわけです。

当時、僕は横浜の教会から通っていたのですが、空爆で毎日のように人が死んでいました。僕は、そうした死体を乗り越えるように生活していました。そんな中で、戦争の悲惨というのは身に染みて感じました。

この二つが、僕が牧師として平和に関わっていくことの原点になったと思います。

### 中国革命の衝撃～マルクス主義との出会い

敗戦の年に卒業して、郷里の島根県岩見益田に開拓伝道をしに帰ったのです。当時は、日本中が英語ブームで、英語学校を開いたらたくさん生徒が集まってね、それで生活ができたのです。

1949年、それまで、借りていた益田の街の公会堂の建物を改築して教会を建てました。

その年に中国革命が起こります。中国で伝道をし、教会や学校を造っていた牧師たちが「植民地主義の手先」ということで次々と追放されるという事態が起こります。それまで、教会を建てることだけを考えていた僕にとって、それは非常にショックでした。社会的な問題との関係を抜きに伝道し、教会を建てても虚しいと思いました。

それから、僕はマルクス主義の勉強を始めて、今日に至っているわけです。

1954年、アメリカの水爆実験で漁船が被爆する第五福竜丸事件が起こりました。それをきっかけに日本中で原水爆禁止運動が起こり、僕もそれに参加します。

僕は島根県原水協の議長にかつがれ、日本原水協の常任理事、日本平和委員の常任理事に選出されました。

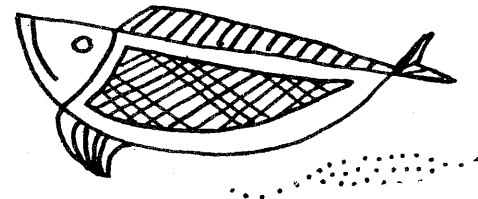
1957年、原水爆禁止世界大会のために来日していたドイツのニーメラー牧師らドイツ平和委員会から招かれて、ドイツを中心に、ヨーロッパ各国を講演しました。ちょうど、その年はドイツの核武装の動きに対しての反対運動を平和委員会が活発に行っていた時でした。

ドイツでは共産党が非合法化されていて、共産党員がみな平和委員会に入っていたわけで、議長は牧師だけど、実態はほとんど共産党というふうでした。

僕は、その活動として1年間講演活動をしたわけです。

それに対して、ドイツ教会の議長がクレームを付けたのです。僕の所属する日本キリスト教団に「日本から来た牧師が、共産党と一緒にドイツの批判を繰り広げている。すぐに呼び戻せ…」というふうですね。

とにかく1年の約束の後帰国すると、今度は教団の中でレッド・パーズされます。



### 解放の神学者として

1960年に岩見益田教会を辞任して、東京の練馬で開拓伝道を行いながら、東京労働神学社を設立しましたが、その活動は、一切教会の認められませんでした。ドイツから帰って70年まで、そうした状態が続きました。

60年安保の時は、練馬の民主団体協議会の議長をしていました。僕は、その時、労働キリスト教会議というのを作っていました。今から言えば未熟なものですが、 Kommunismus とキリスト教の統一ということについて、本も書いています。共産党の異端の人々、除名されていた人たちとの関係が深く、「赤いバテレン」というニックネームがついてたりしました。しかし、選挙のときは、共産党しかないんだから、共産党に投票するという立場をずっととってきました。

ところが、70年に入ると、レッドパーズなんてやっつけられなくなるのですよ。共産党どころではない、新左翼なんてのが出てくるでしょう。特に、同志社大学の神学部なんて、僕が労働神学社をやっている時に何度も講演によんでくれました。教団内部も少しづつ変わってきました。

70年に、大阪の蒲生教会に赴任しました。それから、ニカラグアに行つて京都に来るまでずっと蒲生教会にいました。

蒲生教会に赴任してからは、原水協等の平和運動で知り合っていたこともあって、革新懇の議長をずっとやっていました。京都に来てからは、市民運動ということで活動しています。もともと、共産党に対しては批判的につきあっていたけですが、そこから離れようという転機となったのは、ニカラグアに行ったことです。

### ニカラグアで学んだこと

ニカラグアに初めて行ったのは、89年、アジア・アフリカ連帯の友好親善訪問団の一員としてでした。

その時、アジア・アフリカ連帯のニカラグア駐在員の

方から、「ニカラグアには、中南米中の解放の神学者、いや、世界中の解放の神学者が集まっている。しかし、日本からは一人も来ていないから、澄田先生のような方が来て欲しい」ということを言われたのです。帰国して色々考えて、つれあいとも相談したのですが、つれあいも賛成してくれたので、ニカラグアに一年半いました。

その間に、中南米を始めとする世界中の解放の神学者たちと共に共同研究をしたのです。ニカラグアで共同研究をする一方、教師として、ニカラグアの中米大学で日本語と日本文学を教えていました。

僕は、ニカラグアで実際に命を賭けて解放のために闘っている人達、解放の神学者たちから多くのことを学びました。

最も重要なことは、統一(統一戦線)ということです。党と統一戦線の問題については時間があれば、ゆっくり話をしたいですが、共産党とかの政党が主導して革命をするといったことではないということです。

そうではなくて、市民運動、草の根の運動が中心になっていかねばいけないんだということです。政党は出来ることをしたらいいのですが、「政党が指導して社会を変えていくような時代ではないんだ。」ということ、僕はニカラグアではっきり見ることが出来ました。

### 最も大切なこと～統一戦線

ニカラグアにはサンディニスタ民族解放戦線という統一戦線があります。隣のエルサルバドルでも解放戦線ですよね。みんな解放戦線の中で社会革命の前進がなされているわけです。

日本は中南米とは政治状況は違うわけですが、人民大衆が団結していく、統一戦線をつくっていくか、ねばならないということは共通していると思います。

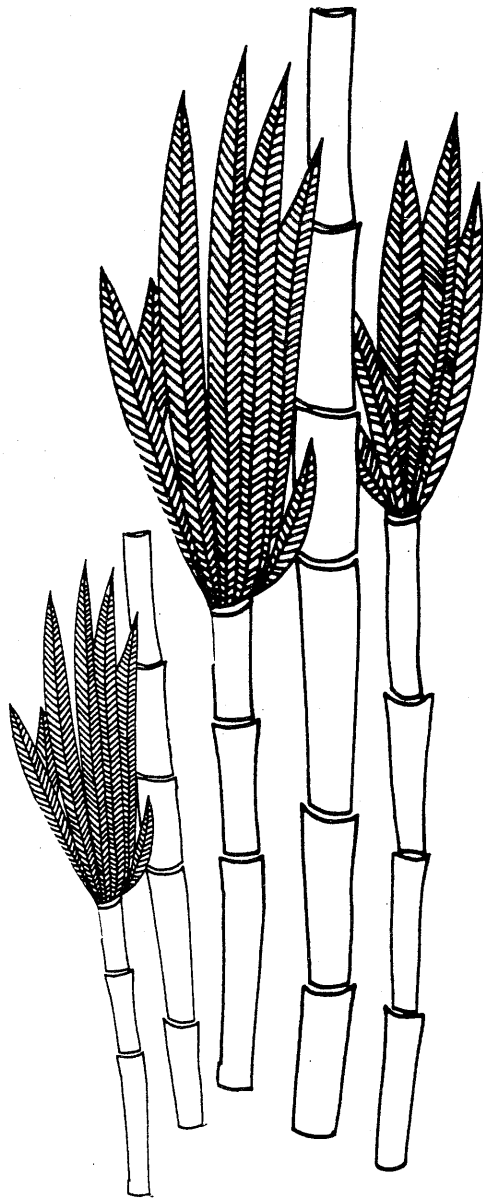
統一戦線を作っていくためには、それをつくっていく人々が、それぞれの「正しさ」にしがみついているとはいえないわけです。各自の違いを認めたと、一緒にやっていくことを考えていかねばならない、誰かが指導し

ていくとかいう問題ではないのですよ。ところが、日本では共産党が一番それにしがみついている。

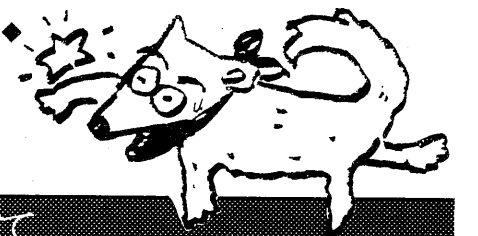
僕は、中国革命以来、自分のことを共産主義者だと思っています。共産主義者ということではなくてね。

聖書がそうなの。コミュニズムという言葉自体がここから出ている、コンミュニオンね。だから、「解放の神学」というのは、特別の神学でもなんでもないので。

共産主義ってというのは、貧しい者をなくする、苦しんでいる者、差別されているものを無くすということなんだよね。それを実現するためには、中南米でも日本でも、民衆の統一の道を進むということだと思います。



## 希望西から東から 犬も歩けば希望にあたる!



### 大地震より1年を経過して

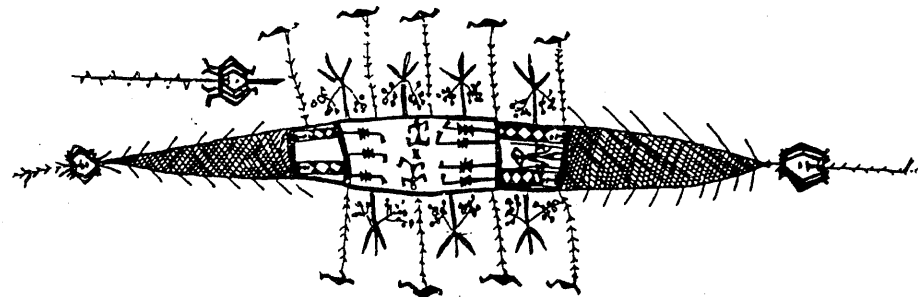
江口 幸一

地震から1年が過ぎた。希望・神戸は半ば以上、救援隊での実践を通して、自分たちの街作りのありかたを模索してきた。実際のところは救援隊の抱える現場や組織運営などにメンバーが忙殺されて、希望として方針を明確に掲げて活動を行えなかったともいえる。ともあれ、この一年の活動を通して浮かび出た問題と私たちの役割について、私なりに整理したことを報告したい。

この1年、被災地を巡る情勢は目まぐるしく変化し、そして多様化した。被災のあり方自身も甲南大学の滝沢教授が「これは階級の問題だ」と雑誌「世界」誌上で断言したようにある偏差を含んでいた。しかし私には被災直後の困難、助け合いにおいて、神戸市民の中にそうした大きな差があったとは思えない。ただ、そこからの復旧が、家が残った人とそうでない人、若者と老人、仕事がある人とない人という属性の違いにより大きな幅が生まれ、そしてその属性の中の無視できない要素として「階級」があったと私は理解している。この立ち直り速度の大きな幅が問題を多様化させている根本だと思うが、問題はそれら異なる局面にいる被災者同士が結び合っていないということではなからうか。

避難所の閑散とした光景を切り取ったマスコミ、そしてそれに対して茶の間という安全地帯から悪意の視線をなげかける人々という構図はすでに指摘されて久しい。私はその避難所に最も辛辣な視線を浴びせていたのは他でもない被災者ではなかったかと疑うような発言を街に出て活動をする中で何度となく聞いた。この被災者どうしが撃ちあうという問題は、不可避なのだろうか？

例えばそれは17日をめぐる人々の動きにもよく現れている。互いへの中傷、やたら分裂したがる傾向というのは左翼組織だけが抱える問題ではないらしい。一つの集会在他を否定しあい、参加者を色分けするような「本家・元祖」争いのような事態が実際に起きている。この指とまれで運動は一つにならないだろう。また局面の違う被災者の問題を無理やりにまとめるのは最大公約数の名の下に一つ一つ切実な被災者の生の声を封じるに等しい。しかし個々の課題を大切にし相対に別個に運動を作りながらも、通底する部分でエールを交わし、核心の所で力を統一できないものだろうか。私たち希望の役割はまさにそうした統一を作り出すことにこそあると考える。私たちは17日の集会では、公的資金の導入を求める集会に合流した。ただ統一しようと呼び掛けても、そこにまた一派が生まれるだけに終わるようなことになりかねない。呼び掛けを行い、今までの経過を整理することも大事だが、運動の中身自身が多様な困難のありように応えるものであることが大前提だ。それでいけば、自力で立ち上がり生きてきた被災者にとって自力や相互扶助では切り抜けられない経済的問題を軸にすることは「多様な困難に通底する問題」をとらえていると考えてのことである。集会后の整理の中でも、今度こそ神戸の被災者が一丸となるために自分たちに何が出来るかを問う論議が起こってきている。自身が被災者でもあるメンバーばかりの希望・神戸は今こそ、救援隊の仲間とともに積極的に灘区から神戸市全域にていかねばならないと思う。



## <「もんじゅ」ナトリウム漏出事故に抗議する現地集会>に参加して

希望21大阪 真下 八十雄

米原ジャンクションをすぎ、北陸道に入った途端に雨がみぞれに変わり、路肩に雪がたまりはじめていた。

12月17日。「もんじゅ」ナトリウム漏出事故から10日目のこの日、事故現場から数百メートルのところにある白木浜では大規模な抗議集会が行われるようになっていた。

事前の署名（「もんじゅ」凍結100万人署名）呼びかけのためにJR敦賀駅前に集合。吹きさらしの駅前で、しかし元気に署名呼びかけを始める。

20分ほどしてパトカーと移動交番が登場。続いて抗議集会参加者とおぼしきバスが次々と到着。「ストップもんじゅ！」のノボリを高く掲げると車内からガッツポーズが返ってきた。寒さでこわばっていたメンバーの顔から笑顔がもれた。

白木浜での抗議集会は13:00スタート。車とバスに分乗して現地に向かう。真新しいトンネルを抜けると「もんじゅ」は目の前だ。スタンバイしている警察官や警備員のオッチャンを右手に見ながら浜へお入り。小さな集落にはズラリと車が並

び、人とプラカードがあふれかえていた。方々で演説が始まり、上空にはヘリコプター、バスのエンジン音。サングラスにマスクにヘルメット。ジグザグデモまでとびだした。大きな団体に属したこともなく、このスタイルの集会に参加した経験も少ないもので、すっかり浮いている自分を思い知りながら、ノコノコと歩き回って写真をとった。

.. なんか皮肉っぽいことを書いてしまい申し訳ない。現地に行っておられた方怒らんとって下さい。私は批判をするつもりは毛頭ないですし、「民主化」の大きな吸引力となったそのパワーには敬意をはらっておるつもりです。願わくばそのパワーと、現地や都会で展開されている生活に根ざした「反原発」の動きとが良い形で、お互いを認めあいながら融合できる道、そんなスタイルをつくり出すことができればステキやなあ.. そんなことを考えながらシャッターをきっていました。

想いは同じはず。「原発いらん。生命がだいじ！」です。

## 共生を考える MGA-ASAWA 物語

麻吾途 亜巳 (マゴニ アミ 日野市在住)

私の妻はフィリピンである。組合の用事でフィリピンを訪ねていた時、一目惚れして、文通を始めた。私の親が結婚に反対だったことは大きな障害ではなかったが、話が具体的に進み出した頃から、私はある不安を感じていた。一般的なフィリピンの女性にとって、外国人との結婚は大きな夢といわれている。欧米にはMail Order Marriageして嫁いでゆく女性も少なくなかったし、日本で

も「フィリピン花嫁問題」として取り沙汰された時期だった。私たちの結婚にはこうした要素がないと断言できるだろうか？

私はいかに自分が貧しいかを説明することによって、自分の立場を正当化しようと試みた。だが「組合間差別を受けているので、私の賃金は例外的に少ない」などと言って見ても、それは逆効果だったようだ。いくら少ないといっても、私の月給は

彼らの収入の半年分を優に超えていたのである。私の戸惑いと不安は、逆に少し増大してしまった。

しかし、私の気持ちは抑えようがなかった。日本に失望し、自分にも失望していた私にとって、極貧のなかでも底抜けに明るく、しかも親しみやすいフィリピンの人々は、まさに輝いて見えた。私は彼女というよりフィリピンそのものに憧れていたのかもしれない。

だが、現実とは皮肉なもので、この大きな経済格差に私は救われることになった。お金を貯めることを唾棄すべきものとみなしていた私には、一銭の貯金もなかったのであるが、私たちの盛大な(?)結婚式と披露宴の費用は、何とひと月分の給与で足りたのである。

結婚して6年。2人の子供は幼稚園児と1歳。時として小さなトラブルはある。正直なところ言葉や文化、習慣、価値観の違うものが一緒に暮らすのは大変なことだ。しかしどうやら私の心配は杞憂だったようにみえる。フィリピンと日本を結んで生まれた私達の家庭は、我ながら面白

く、楽しくハッピーである。彼女も同じ意見だといいいのだが。

(今後 不定期に私達の生活の様子を紹介していきたい。MGA-ASAWA は、タガログ語で”夫婦”という意味です)。

## ストリートカルチャーの発信地、原宿ホコ天を奪われるな!!

(つくり隊 菅原”ヨギ”和之)

約20年にわたって、ストリートからの文化を発進し続けてきた「原宿 歩行者天国」が、事前に何の通告もなしに中止された状態になってしまったのです。竹の子族、ローラー、バンド、ダンスチームなどが本当に自由に表現活動を行い、それを見に来る人たちもスペースの制約にとらわれずに楽しめる、すごく大切な場所でした。ホコ天のすべてをきれいな言葉で飾り立てることはできないにしても、若い世代が自分たちの遊び場をつくるために、自治と民主主義を実践してきた場でもあると思います。中止の理由は「交通渋滞の緩和」ということらしいのですが、最も交通量が多かったバブル経済期に比べれば、車の量も減った今この時期の中止は、むしろ民主主義と自治を奪おうという意図があるのではないかとかんぐらざるを得ません。ほんの小さなPAセットでも、演奏しようとした途端に、制服警官が止めに来るという状態です。

すでに、いくつものグループが、バラバラにホコ天再開を求める署名活動を始めました。先日私が原宿を訪れたときも、バンドのファンらしい女の子のグループが道ゆく人に一所懸命署名を呼びかけていました。

破防法の団体適用が取りざたされ、新宿の地下街ではホームレスが追い出され、原宿では若い世代の遊び場が取り上げられる。いま、ストリートが危機にさらされている。だけども人々は、あきらめていません。ストリートを奪われないようにとここで運動が展開されています。みんなが力を合わせれば、ストリートは表現の場となり、変革への場となるでしょう。

もう一度原宿ホコ天で、SHAM69のあの名曲「キッズ・ユナイテッド」が鳴り響くように。そのメッセージの通り、全国で人々が力を合わせ、民主主義と自治を獲得できるように、ネパー・ギブ・アップ!!



## 編集後記

今回は、全部 MS.WORD95 で、編集してみました。  
いかがですか？はつきり言って初めて使うソフトなので我ながら無味乾燥です。でも次回からは、あっと驚く編集をしてやるぜ！ だったらいいなあ。

ところで、私は疲れた体を引きずりながらも、1/21に渋谷の ON AIR WEST で行われた、阪神大震災被災者支援ライブに行ってきた。叫ぶ詩人の会の我童さんの呼びかけたイベントで、震災孤児たちをスキーに連れていくための資金を集めるというもの。イベントが決定したのが今年に入ってからだというのに、会場は盛況でした。

白浜久さんがデビュー曲の「六月の雨」を弾き語りでやったのは、うれしかったなあ。約10年くらい前一期私はこの「六月の雨」を聞きまくっていたことがあって、その頃のことを思い出した。ラストの SoSo まで、イベント全体がとつてもよかったけど、圧巻だったのは叫ぶ詩人の会のラストナンバー「抱きしめたい」だな。これは、統一戦線の原点だなとか思いました。歌詞を引用したいところですが、不正確だといけなないので、みんな CD でも買って聞いてください。泣けます。とにもかくにも音楽の力を感じられる夜でした。というわけでまた来月。 (ニヨキ)

### <お詫びと訂正>

創刊3号の巻頭の文章中、「ナイ国防長官」となっていますが、「ナイ国防次官補」の間違いでした。また、「東アジア戦略報告」が発表されたのは「94年」ではなく「95年2月」でした。お詫びして訂正いたします。

## 希望の21世紀宣言

私たちは、現在のモノ中心の社会を、人間が人間らしく生きることのできる社会へとつくり変えていくことをめざします。

人間らしい社会—人と人が平等に、ともに助け合って、人間が自然の一部として本来の姿で生きることの出きる社会—を実現することこそが、人々の希望です。私たちはそのために、あらゆる領域で民主主義を徹底し、民主主義をばばむものに対してたたかいます。

私たちは、世界に戦争と大国主義の不平等をもたらす憲法改悪を許しません。9条の理念の実態を日本からつくっていくことによって世界の平和と民主主義の実現に貢献していきます。国と国とが対等平等の關係にあり、人間らしく生きることを豊かさの尺度に、人々のあり方を人々が決め、どこの誰もほんとうに武力を必要としない国際社会の実現こそが、平和の実現です。

私たちは、地域からの国の進路、世界の在り方を決定する政治的な力をつくっていきます。そのために、私たちの意思、知恵や力を結集したがいの経験に学び合い、信頼を築き合いながら、自治の実現をめざします。何かに頼ることなく広範な人々とともに、変革の力をつくり、その統一を推進することを自らの役割とします。

世界の現実を変えること—それは私たち自身のありかた、運動の在り方を変えることなくしては実現できません。私たちは自らを変えあうなかで、現実を変革していきます。本音を出し合い、あらゆる困難とともに克服し、成功や喜びを、そして失敗や悲しみをも共有し、助け合って闘いの輪を広げ、そのなかに新しい社会を準備していきます。

私たちは人間らしい社会の実現をめざし、世界の平和と民主主義を求める人々とともに、希望の実現に向けて進みます。

**1部 200円 定期購読をよろしくお願ひします！**

**年間購読料 3,000円(送料込み)**

**郵便振替:00100-1-97125『希望の21世紀』**

月刊『希望の21世紀』●創刊4号●1996年1月25日●

発行●「希望の21世紀」全国調整委員会 編集●希望21・未来はみんなでつくり隊  
連絡先●希望21・三多摩

東京都日野市旭ヶ丘2-19-18 美成社マンション501 金子方  
TEL0425-85-5473

●希望21・京都

京都府京都市中京区丸太町通柳馬場西入る鍵屋町75 東陽ビル3F COM 京都気付  
TEL075-212-2455 FAX075-212-2456

●希望21・未来はみんなでつくり隊

東京都杉並区高円寺北3-22-8 大一市場208 菅原方  
TEL03-3310-4553 FAX03-3223-0468

●希望21・神戸

兵庫県神戸市灘区森後町2-1-7 斎原ビル302 江口方  
TEL&FAX078-843-7626

●希望21・大島

東京都大島町元町字小清水273 尾形方  
TEL04992-2-4708

希望  
21  
century